

5年1組 国語科学習指導案

日時 平成17年10月5日(水)第5校時
場所 5年1組教室(4階)
授業者 戸市 尚文

1、単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう

2、教材名 わらぐつの中の神様 (杉 みき子 作)

3、指導の立場

(1)教材について

この物語は、「おみつ」と「大工さん」とのなれそめのエピソードを、おばあさんが孫のまさえに語って聞かせる、心温まる話である。最初は雪げたを買うお金を稼ぐためにわらぐつを作ることになった「おみつ」であるが、素直な人柄で、うまくできないなりに、使う人の気持ちを考えながら丈夫で長持ちするわらぐつを作ろうとする。また、その雪げたを買う「大工さん」は、「おみつ」の作ったわらぐつを高く評価し、何度も買うことになる。そうした交流を通して、「おみつ」と「大工さん」は結婚することとなっていく。

この物語のキーワードともいえる「心をこめて作ったものには神様が入っている」という一文は、経済的なことにばかり目を向けがちな現代社会を生きる私たちにとって、大切にしていきたい精神的な尊さを教えてくれるものである。また、登場人物の純粋な気持ちや正直な心も、人間社会において普遍的な価値を持つものである。登場人物の生き方や考え方について読み深めることで、こうした道徳的なすばらしさについて読み取らせていきたい。

また、この物語の構成も巧みである。現在 過去 未来 という時間の行き来があり、それに伴う場面の飛躍的な転換があったり、謎解きのような一面があったりして、興味深く読むことができる教材であると考えられる。

さらに、物語を通して使われている方言が、作品の持つ温かい雰囲気盛り上げていることにも気づかせ、方言のもつ良さについても感じさせていきたい。

(2)児童の実態

男子12名、女子16名の学級である。素直で優しい児童が多く、学級全体としてはおとなしい雰囲気がある。学級目標の一つ「なかよくする」については、日々意識し、行動に移している児童も少なくない。

しかし、学級目標「考えて行動する」「まちがえてもいいから手を挙げる」については、まだまだ達成できずにいる。自信が持てず、自分の考えを表に出せなかったり、行動に移せなかったりする姿がめだつ。授業中の態度でも、自信がなくノートになかなか考えを書けなかったり、発言できなかったりといった姿がしばしば見られる。決まった児童だけで話し合いが成立することが少なくない。話し合いに必然性を持たせ、さらに、より多くの意見を出し合うことの意義を感じさせることで、話し合い活動を活性化していきたい。

物語を読むことは好きな児童が多い。物語の持つ良さを素直に感じ取ろうとし、物語にのめりこむ事ができる児童が多く見られる。しかし、文章中の言葉ひとつひとつにこだわり、根拠を明確にして考えを持つことは苦手な児童が多い。本単元では、登場人物の言動に注目させ、そこに表される人物の考え方や生き方、人柄について読み取らせていきたい。